

市の木 市の花



ツゲ サツキ

広報えいな

編集・発行
海老名市役所秘書広報課
〒243-04
神奈川県海老名市国分155
☎ (0462) 31-2111

動くつて楽しいね

わかば
作業所

わかば作業所 昭和五十三年十一月一日、海源寺北側に開所。新田三八六一、¹ 32・3 (中) 新田三八六一、¹ 32・3 404) 同作業所は一般の職場に雇用されることが困難な障害者。運営は「海老名市手づなぐ親の会」に委託。職員は二十四人、指導員一人。入所についての費用は無料。



作業訓練で大きく成長

目はキラキラと
美しく輝いた

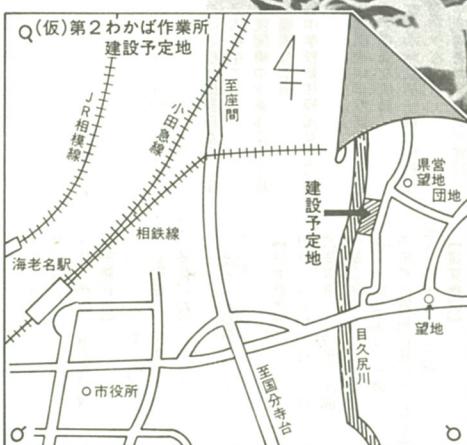
就労が困難な在宅心身障害者の自立を促す施設「わかば作業所」が中新田のほか、望地にも建設されることになりました。建設計画や作業所での生活などを紹介します。

「今までに見たことのない真剣なキラキラした美しい目でした。どんなに楽しく仕事をしてきましたかがわれ、私も涙が出てるくらい嬉しく思いました」「入所している子供たちの様子をつかがうと、当初はとても手のかかるひ弱であった者が、数年の作業所での仕事、生活によって見違えるよつに立派になりました」と、娘も先輩たちのように作業所での生活を通して、何とか自立性を増し加えられました。

わかば作業所に通う訓練生の母親の声です。

わかば作業所は、一般の職場に雇用されることが困難な障害者に働く機会を、と五十三年十一月に開所しました。同所では生活訓練や作業訓練を行い、可能な限りの社会参加を目指しています。

「歳月はそれなりに娘を成長



第2の作業所を建設

就労困難な在宅心身障害者

の自立を促すための施設「わかば作業所」が中新田地区のほか、望地地区に新たに建設されることになりました。入所希望が増えており、第二の施設づくりが必要となつたためです。

二つ目のわかば作業所は、鉄骨フレーム平屋建て、二百八十一平方㍍。作業室、和室、食堂、休憩室などが配され、年一月に開所する予定です。建築費用は約四千百万円で、定員は二十六人で、運営の方法や入所対象者は、中新田

五歳までの訓練生三十八人で定員オーバー。しかし、会社などへの社会参加はなかなか進ま

街は幸せな街
障害者に温かい

にあるわかば作業所と同じです。わかば作業所は市内に二つできることになりますが、作業所内の訓練は、生活学習と作業学習の二つの柱で行われます。

生活学習は、食事、衣服の着脱などの基本的能力の育成を図り、作業学習は、就労的基本的態度の「んぞん」と作業能力の開発をばかりります。

わかば作業所では、現在、企業からの受注を受けタオル折りやスponジ袋つめなどの作業訓練を行っており、この訓練を通して社会復帰を目指します。

このほか、各種スポーツ、レクリエーションを通して健

康な体づくりと健康管理も行います。

一方で養護学校を卒業しない、一方で養護学校を卒業していない重複の障害者は次第に増加するに足らないことであつて、私どつては強く心を打たれるのです」

伸びる芽を見つけて、可能性を引き出しきった結果といえます。

同所の運営を委託され、所長で「市手をつなぐ親の会」の会長でもある榎本芳枝さんは、「障害者を家中に隠し、人目に触れないようにしてきた過去から、親も子も積極的に社会の中に生きるようになった」といいます。そして、どのような子供でも働く喜びを持つて、自分ができたことに体を通じて喜びを表わし、それを見る親の喜びも、また大きい、とあります。

「私はいま、海老名に住む」との幸せをつくっています。障害者に温かいやりがいをそぞろにされる街(行政)「街」の「」、「障害者だけでなく、老人にも子供にも、そして、一般市民にとって、心豊かな街」であると思ふのです」という声が一人で多くなる「まちづくり」に海老名市は努めています。

「親として、卒業後も仲間と一緒に楽しく過せる場を与えてあげなければ」と切実に思う」との声に代表されるように、第二のわかば作業所建設が望まれています。

「親として、卒業後も仲間と一緒に楽しく過ごせる場を与えてあげなければ」と切実に思う」との声に代表されるように、第二のわかば作業所建設が望まれています。

